



「大人の社会科学見学」として水質にこだわりながら、田沢湖、玉川ダム、玉川温泉と、玉川の流に沿ってさかのぼりながら休日ドライブを楽しんでみるのも一興。ダムサイトには見学無料の資料室がある

新緑の候、である。

若葉の初々しさがけなげで、雪解け水で水位の上がった湖面にポカリポカリと浮かぶそれらのさまは、この世のものとも思えぬ美しさ。まさに眼福。

それにつけても、この湖水の色合いの妙なることだ。なんて自然は想像を超えた美しい光景を我々に見せつけてくれることだろう。

…と感動にひたりきっていたところだが、実はこの湖水の色、自然が生み出したものではないようなのだ。

ここは玉川ダム（仙北市）の完成で誕生した人造湖の宝仙湖。流入する河川水には玉川温泉の大噴（おおぶけ）を源とする流れがある。玉川の温泉水は人間の健康回復に大いに貢献してくれているが、一方で、そのあまりの強酸性のため「毒水」とまで呼ばれ、下流域ではかつては農薬用水にすら適さないほどだった。

玉川毒水の問題は江戸時代から取りざた

されていて、嘗々と解決策を探ってきたところだった。しかし、どれも決め手にはならなかった中で玉川ダム建設構想が浮上した。そこで生まれた奇策ともいえるアイデアが、上流部の中和処理施設で石灰石を使って中和処理を行った毒水を、宝仙湖に貯めて攪拌し、さらに中和を進めようというもの。つまり、現在の宝仙湖の瑠璃色の湖水は、玉川温泉の強酸性水と石灰が反応して生み出されたものなのだ。

やはり玉川からの河川水導入で魚のすまない湖になってしまっていた田沢湖で近年魚影が見られるようになったのも、実はこの玉川ダムの存在が大きかったのだろう。

宝仙湖の湖水の色には「意味があったのだ」と分かる。この光景を前にした感慨もひとしおである。満々と雪解け水をたたえた今ごろがとりわけ美しい。晴れた日の休日にドライブにお出かけになってみてはいかがだろう。

るり 瑠璃色の春